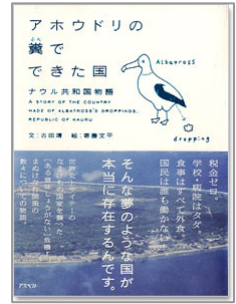


愛知県図書館



- アホウドリの糞でできた国
- ナウル共和国物語
- 古田靖／文
- 寄藤文平／絵
- アスペクト

国民みんなが遊び暮らせるくらい豊かな国があるって本当？ 本当です。それは太平洋の赤道付近に浮かぶ小さな島国、ナウル。さんご礁にアホウドリが糞をして、その糞が堆積してできた島です。この糞からりん鉱石という高価な石がとれるため、ナウルはほんの百年の間に、自給自足の自然生活から、「世界でもっとも豊かな国」まで発展しました。でもそれは長くは続きませんでした。遠くて近い国のことを知ってみませんか。

愛知県図書館



- いま生きているという
- 冒険
- 石川直樹
- 理論社

作者の石川さんは、高校二年の夏休みインドを一人で旅してまわって以来、観光旅行ではない、人力や自然の力による旅を続けています。カヌーで川を下ったり、世界の山々に登ったり。でも辺境の地に行くのが冒険かという点、それは違います。心を揺さぶる何かに向かい合い、世界の無限を知ること、それこそが冒険だと石川さんは言います。今ここにも旅に出ることはできるのだと。あなたは「冒険」してますか？

一宮市立豊島図書館



- ボックス！
- 百田尚樹
- 太田出版

幼なじみでありながら、全く違うタイプの二人の少年。天才的ボクシングセンスの鎬矢と、進学コースの秀才・木樽。大阪の高校ボクシング部を舞台に、少年たちを軸に交錯する友情・闘い・挫折、そして栄光の日々。二人を見守る沢木監督、英語教師・耀子、立ちほだかるライバルたち。様々な経験は、二人の心と肉体を成長させます。彼らがつかみ取ったものは……。

一宮市立豊島図書館



- リボン
- 草野たき
- ポプラ社

「先輩、リボンくださいあ〜い」卓球部女子には、卒業式に先輩から制服のリボンをもらう伝統があります。人気があるのは、卓球のうまさよりも、断然彼氏持ちの先輩。試合も勝てず、彼氏もない池橋先輩に、亜樹はなぜかリボンをもらえませんでした。部活も家族も友達も「波風を立てないこと」をモットーに生きてきた亜樹の中で、今、何かが変わりつつある……。うつりゆく十五歳の気持ちをリアルに描いた一年間の物語です。

稲沢市立中央図書館



- サブリエル  
— 冥界の扉 —
- ガース・ニクス／作
- 原田勝／訳
- 主婦の友社

ある夜、寄宿学校に突如として現れた化物から、自分宛の荷物を受け取った少女サブリエルは、父親と故郷である古王国の危機を悟ります。父は冥界から邪悪な死霊を蘇らせるのを防ぐことのできる「アブホーセン」で、彼女はその唯一の跡継ぎでした。平穏な生活を捨て、敵との孤独な戦いに挑みます。父から贈られた魔法の剣とハンドベル、魔法の白猫と共に繰広げる少女の冒険と成長の物語。ファンタジー好きに絶賛された、三部作の第一巻です。

稲沢市立中央図書館



- The  
MANZAI
- あさのあつこ
- ポプラ社

姉ちゃんと父さんが死んだ後、大阪の学校に転入した主人公。母さんに心配をかけるために「普通」でなければならぬ、と明るくふるまっている。おつきあい」を申し込んできたのは、同性のかわいいクラスメイトだった！

性格も体格も正反對な二人がすったもんだしたあげくに組んだ漫才コンビが文化祭に向かつてひた走ります。悩みあり、友情あり、笑いありの人気シリーズ。中学生たちの等身大の青春コメディです。

瀬戸市立図書館

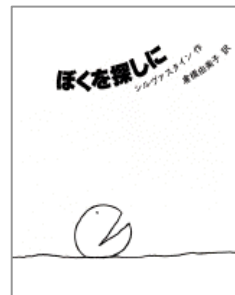


- 豚の死なない日
- ロバート・ニユート
- ン・ベック／作
- 金原瑞人／訳
- 白水社

小さいころからぼくが大事に育てていた豚のピンク。コンクールで一等賞をとったピンク。でもその冬、ピンクは父の手で……。いやでいやでたまらなかつたけれど、やらなくてはいけないんだ。生きるために、ぼくたちが生きるために。そしてまもなく父は死んだ。家族のきずな、生きることの喜びと悲しみ。ユーモアと切なさ。

訳したのは「蛇にピアス」の作者のお父さんです。

瀬戸市立図書館



- ぼくを探しに
- シェル・シルヴァス
- タイン／作
- 倉橋由美子／訳
- 講談社

「ぼくはかけらを探してる 足りないかけらを探してる ラッタッタ さあ行くぞ 足りないかけらを探しにね。」

かけらを探しに、いろいろなものを出会い、いろんなことをしたり。やっと思つた、ぼくにぴったり合いそうなかから。あれ？ ぴったりはまったと思つたら、今度はちっとも面白くない。かけらをそつとおろし、ころがりながらそつと歌う。だめな人とだめでない人に贈ります。

## 春日井市図書館



- 絵本 玉虫厨子の物語
- 平塚武二／作
- 太田大八／画
- 童心社

## 春日井市図書館

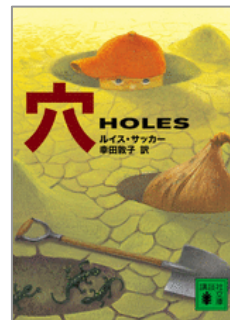


- The Giving Tree
- シェル・シルヴァスタイン
- Harper Collins Publishers

奈良法隆寺にある玉虫厨子（たまむしのずし）にまつわる話です。若い仏師若麻呂は、心をこめて見事な厨子を作りましたが、何か物足りません。ある日、虫とりの子どもが持っていた玉虫を見て真の美しさを感じ、厨子にはりつけようと玉虫を探しに出かけます。探しているうちに自然界の法則を知り、美しいものの真実を、神を越えた美そのものを見出していきます。

中学校で英語の学習をしたら、きっと読めることでしょう。平易な文、わかり易い単語で、しかも奥深い内容です。日本語訳「おおきな木」で、既におなじみかもしれません。原文で読んでみませんか。一本のりんごの木は、一人の友達に、自分の肉体をけずって、葉を、果実を、枝を、幹を与え、すべてを与えてしまいます。それも「与える」行為が、犠牲や喪失ではなく、愛と喜びである点に、まさに現代に問いかける課題がひそんでいます。

## 小牧市立図書館



- 穴
- ルイス・サッカード／作
- 幸田敦子／訳
- 講談社

## 小牧市立図書館



- 夏の庭
- — The Friends —
- 湯本香樹実
- 徳間書店

スタンリーは無実の罪で、草木も生えないような荒地にあるグリーン・レイク・キャンプ少年院に送られます。そこで少年たちは、所長の命令で毎日一つずつ大きな穴を掘らされています。スタンリーも毎日穴を掘らされますが、何か秘密があることに気づきませんが、そしてある日、スタンリーはキャンプを抜け出します。その意味するのは……。スタンリーのひいひいじいさんの話を各所に織り込みながら謎めいた話が展開します。

物語は六年生の少年三人組が、人の死について確かめたい気持ちから始まります。それは三人の中の一人が祖母の葬式に出席したことからでした。河辺、山下、ぼくの三人は、近所の一人暮らしのおじいさんを毎日見張ることにします。三人の生活とおじいさんの人生を絡めながらストーリーは進み、少年たちの中で何かが変わり始めます。少年たちとおじいさんの関係があなたかくユーモラスに語られています。



## 尾張旭市立図書館



- DIVE!!
- 森絵都
- 角川書店

知季、要一、飛沫たちの通うダイビングクラブは弱小でした。クラブ存続の条件は、全国大会や国体などの国内大会ではなく、オリンピックでした。コーチのやり方に反発しながらも要一たちはすべてをかけました。高さのある飛び込み台からダイブして、演技の正確さと美しさを競う飛び込み競技が「ダイビング」です。この作品は、ダイビングにかける要一たちの青春する姿が描かれています。

## 尾張旭市立図書館



- となりのウチナーンチュ
- 早見裕司／作
- 佃二葉／絵
- 理論社

沖縄と本土の違いや、知られていない沖縄の現実。沖縄という土地に主人公が適応しながら前向きに生きていこうとする物語。初めは友達なんかじゃないと思っていた主人公ですが、人間の温かさや優しさにふれていく中で、友達をつくり絆を深めていきます。いくつかの不思議な体験や事件がありますが、新しい生活をする不安はありませんが、何とか頑張っていこうとする気持ちに共感できる人も多いことでしょう。

## 豊明市立図書館



- 木を植えたひと
- ジャン・ジオノ／作
- ウィリー・グラサウア／絵
- 福井美津子／訳
- 世界文化社

一九一〇年当時、フランスのプロヴァンス地方のヴェルゴンは全く生氣のない村でした。水汲み場の水はかれ、家も朽ち果て、住む人々の心もすさんでいました。農夫ブフィエは、長い年月をかけ、たった一人で黙々と木を植え続け、荒涼とした土地を人々が住みたいと願う場所よみがえらせたのです。この本からは、一人の人間の粘り強い無私無欲の行為が大きな自然をも創り出すという人間の力の偉大さとすばらしさが伝わります。

## 豊明市立図書館



- 頭のうちどころが悪かった熊の話
- 安東みきよ／作
- 下和田サチヨ／絵
- 理論社

頭をぶつけて一緒にいた妻のことを思い出せない熊、キツネを食べて後悔して泣くトラ、シラサギにあこがれるひねくれものカラス、カエルになんたたくないおたまじやくし、人生の意味について考える牡鹿<sup>おじか</sup>、……イソップ童話やグリム童話の世界を思わせる動物たちの七つの寓話。どこかに自分と重なる動物がいるかもしれません。だけれかのことを思いやる動物たちの心優しさにほのぼのとさせられ、オチのあるお話もそれぞれ奥深くゆっくりと楽しめます。人生について考えてみたくなる本です。



## 清須市民センター



- 医学のたまご
- 海堂尊
- 理論社

「道は自分の目の前に広がっている。」と、カオルは言いました。

主人公の曾根崎薫はごく普通の中学一年生。潜在能力検査でひよんなことから全国一の成績をとってしまいます。「日本一の天才少年」として東城大学の医学部で研究をすることに。医学生としての生活は、冷や汗と緊張の連続です。主人公のキャラクターと父親の的確な言葉（アドバイス）が印象に残ります。横書きで読みやすく、コミカルで爽やかな医学ミステリーです。

## 清須市民センター



- レネット
- 金色の林檎
- 名木田恵子
- 金の星社

チエルノブイリ原発事故の前日に生まれた徳光海歌<sup>とくみつみか</sup>。十二歳で死んだ兄、一身に息子の死を背負って生きる父、父を責める母。その徳光家に原発被災者の少年セリョージャがやってきました。一家における小波<sup>さざなみ</sup>。

不器用な家族の哀しみを北海道の海と大地がうけとめて、やがて家族の絆へとかえていく。けがれなき林檎<sup>りんご</sup>への祈りとともに……。

しつかりしたストーリーにぐいぐい引き込まれます。「地球家族」のきずなの物語！

## 清須市春日公民館図書室



- おいしいハンバーガーのこわい話
- エリック・シュロー
- サー、チャールズ・ウィルソン／著
- 宇丹貴代実／訳
- 草思社

みなさんの中で、ハンバーガーやチキンナゲットを一度も食べたことがないという人は少ないと思います。手軽でおいしい食べ物ができるのは、それが作り、何が入っていて、それを食べるかどうか。この本には、普段おいしく食べているファストフードについて、今まで知らなかった怖いことがたくさん書いてあります。この本を読んで、普段何も考えずに食べている食べ物について、興味を持ってもらいたいと思います。



## 東郷町立図書館



- ガラスのうさぎ (新版)
- 高木敏子／作
- 武部本一郎／画
- 金の星社

昭和二十年の第二次世界大戦末期、十二才の少女敏子は東京大空襲で母と妹を失い、その後、頼りにしていた父も目の前で命を落とします。残された敏子は悲しみとつらい生活にもくじけずに、復員した兄と共に生きていきます。この本は著者の戦争体験に基づいて執筆され、戦争の恐ろしさや平和の尊さが伝わる本です。主人公と同年代の子供達にぜひ読んでほしい一冊です。

## 東郷町立図書館



- 十二番目の天使
- オグ・マンディーノ／著
- 坂本貢一／訳
- 求龍堂

若くして成功を収めた主人公ジョンが、妻子を失い絶望のどん底の中で、親友のはからいでリトルリーグの監督に迎えられる。そこで運動が苦手なティモシーという少年に出会い、ティモシーのあきらめないという気持ちに触れて、ジョンも立ち直っていきます。この本を読めば、ティモシーに大切なことを教わることもできると思います。涙なくしては読めない感動の物語です。

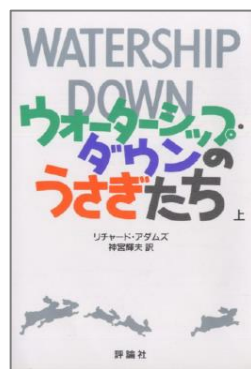
## 長久手町中央図書館



- 愛の旅だち
- K・M・ペイトン／作
- 掛川恭子／訳
- 岩波書店

孤児のクリスチナは、十二歳の時、おじの家に引きとられ、いとこたちとともに育てられます。情熱的なマークと賢いウィル。二人に守られクリスチナは成長していきます。イギリスの階級社会がまだ根強く残る時代、豊かな自然に恵まれたフランバース屋敷を舞台に、ストーリーはドラマティックに広がります。人を愛する喜びと苦しみに悩みながらも成長していくクリスチナの姿は感動を呼びます。三部作全五巻の長編ですが、ラストまで一気に読めます。

## 長久手町中央図書館



- ウォーターシップ・ダウンのうさぎたち
- リチャード・アダムズ／作
- 神宮輝夫／訳
- 評論社

この本は、ウサギを主人公にしたファンタジーです。人間の開発によってすみかを追われたウサギたちが、新たなすみかを求めて旅に出ます。川渡りや他の村のウサギたちとの戦いなど、数々の冒険の末、自分たちの村を築き上げます。様々な性格や能力をもったウサギたちと、冒険の舞台となるイギリスの丘陵地帯の自然が生き生きと描かれています。





### 犬山市立図書館

- 風神秘抄
- 荻原規子
- 徳間書店

ときは平安末期、源氏が破れ平家が勝った「平治の乱」から、物語は始まります。主人公の草十郎は十六歳。野山で笛を吹くのが好きな彼が、鎮魂の舞を舞う少女、糸世と出会ったとき、運命が、そして世界が大きく動き出します。後白河上皇、源頼朝、そして草十郎だけが会話できるカラスの王・鳥彦王……。史実と創作の入り混じる壮大な歴史ファンタジーに、一ページ目から引き込まれてしまいます。物語の世界にどっぷりつかると、楽しさを、ぜひ体感してほしいと思います。

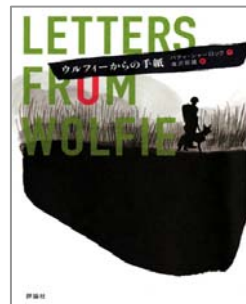


### 犬山市立図書館

- ぎぶそん
- 伊藤たかみ
- ポプラ社

ガク・マロ・リレイ・かけるの四人はバンドを組んでいます。文化祭で発表する予定ですが、家庭環境や中学生らしい様々な思いから対立が起きます。無事に文化祭を成功させることができるのでしょうか。昭和の最後を駆け抜ける疾走感の中、実際にありそうな世界に引き込まれて楽しむことができます。「ぎぶそん」は、かけるの持っているギターの会社名です。なぜそれが書名なのか、そんなことも考えながら読んでほしいと思います。

### 豊山町社会教育センター図書室



- ウルフィーからの手紙
- パティ・シャーロック
- ／作
- 滝沢岩雄／訳
- 評論社

アメリカ陸軍の兵士としてベトナムに行った兄さんが、手紙で軍用犬を必要としていると伝えてきました。主人公のマーク少年は、大好きなジャーマンシェパードのウルフィーを差し出すことに決めました。その後、マーク少年は、周囲の人たちとの話し合いの末に、悩みながらも愛犬を軍から取り戻すための戦いを始めます。国対国の戦争の中で、一人の人間としてとるべき態度について考えさせる本です。

